生産力の持久を圖れ！

第六回全國産業安全大會

——於横濱市開港記念横濱會館——

第六回安全大會議決事項

一、産業犧牲者絶滅ニ關スル件

決議

現下ノ非常時局ニ際シ銃後ヲ固ムベキ重責ヲ有スル我等産業人ハ健全ナル國家生産力ノ持久策ヲ講ズルヲ以テ報國ノ第一義トナスベシ、然ルニ近時生産機能ノ急激ナル擴大ト共ニ工場、鑛山其他ノ事業場ニ於ケル災害疾病ニヨル犧牲者著シク增加シツツアルハ國家ノ爲ニ寒心ニ堪エザルところナリ

我等ハ此ノ憂慮スベキ現象ニ對シ一層深ク於ケル設備ノ改善、事業場ニ於ケル安全教育ノ徹底、體育榮養其ノ他福利施設ノ整備ニ一段ノ力ヲ致シテ之等不幸ナル産業犧牲者ヲ根絶シ進ンデ勞務者ノ健康增進ヲ圖リ以テ國力ノ充實、國運ノ進展ニ貢獻セムコトヲ期ス

右決議ス

一、第七回産業衛生展覽會開催地及時期ノ件

開催地　京都

時期　昭和十三年十月又ハ十一月

一、第八回産業衛生展覽會開催地及時期ノ件

開催地　富山

時期　昭和十三年十月

軍需生産の繁忙の爲、工場、鑛山其他の事業場に於て産業災害が漸次に叫ばれて居る折柄、第六回産業安全大會が神奈川縣工場協會と本會との共同主催で、帝都の表玄關である横濱市に於て三月二十五、六日の兩日に亙り開催され、全國の勞務關係者が兩日共各々一千名も參會したのは定に意義深き事であつた。

第一日は午前九時より開港記念横濱會館に於て開催された。先づ内閣告論を神奈川縣警察部長吉田昌福氏が朗讀、神奈川縣工場協會長野々山重治氏に代はつて副會長高橋貴一郎氏が開會の辭を述べ、次いで本會々長德川家達公爵の式辭を本會常務理事町田辰次郎氏が、厚生大臣告辭を同省勞働局長成田一郎氏が、商工大臣祝辭を縣經濟部長江邊清夫氏が夫々代讀し、續いて同縣知事伊藤氏祝辭を述べた。厚生省監督課長沼越正巳氏が滿場一致で座長に推薦され、座長席に就いた後、本會常務理事浦生俊文氏の事務報告があり、續いて部會座長の推薦が行はれて第一部會は厚生技師下河邊良氏、第二部會は同技師武田晴爾氏が夫々就任した。其れより陸軍省新聞班歩兵中佐林銑喜氏の「最近の國際情勢」に就いて懇意なる講話があり、終つて研究、報告、討議に移つた。講演者と聽講者との間に眞摯なる質疑應答が活潑に行はれて有益なる會合であつた。講演並びに講師は左の通りである。

一、國民精神總動員と人事管理　協調會常務理事　蒲生　俊文氏

二、災害による災害の豫防と工場衛生　陸軍工兵少佐　小川　市藏氏

三、人事相談所の活用　八幡製鐵所人事課長　片岡　道信氏

四、綜合的環境整備　協調會囑託　坂本　金吾氏

五、非常時局の産業災害に及ぼしたる影響　厚生技師　武田　晴爾氏

六、軍需品工場の特色ある災害豫防實例　芝浦製作所　高橋　美潮氏

七、體位向上と榮養食　榮養研究所長　佐伯　矩氏

八、體位向上と體育　名古屋醫科大學教授　飯沼　茄吾氏

第二日は午前九時より第一部會が日本海員會館、第二部會が横濱會館に於て開催され、種々研究、報告討議が行はれた。概況左の通である。

第一部

一、熟練工養成と安全教育　住友金屬工業株式會社製鋼所　吉田鉦一郎氏

二、不熟練工に對する安全教育　大阪府産業安全協會　山崎　元英氏

三、男工に對する女工代用と安全　三菱電機株式會社神戸製作所　米田　政純氏

四、青年學校と安全教育　住友金屬工業株式會社　馬場　眞一氏

五、一建築工事場の災害狀況と安全設備に就て　株式會社清水組　久良知丑二郎氏

六、ガイデリックの安全性に就て　合名會社竹中工務店　大内　二男氏

七、土工と安全　大倉土木株式會社　大西　進氏

第二部

一、熔接火管制下の安全作業　八幡製鐵所　中島　正之氏

二、電氣災害の分析と安全作業　地方技師　菅原惠美雄氏

三、製材工場の災害豫防　秋田木材株式會社　中村　武雄氏

四、産業疲勞の本態と其防止策　厚生技師　大西　清治氏

五、工場遮蔽と保健衛生　八幡製鐵所　黒田　靜氏

六、瓦斯中毒と其の豫防　八幡製鐵所　氏岡　正行氏

都會終了後總會が横濱會館に於て開かれ、決議並びに協議に移り、主催者から産業犧牲者絶滅に關する決議案、第七回全國産業安全大會開催に關する案件、第八回産業衛生展覽會開催に關する案件が上程され、滿場一致異議なく可決を見た。協調會常務理事蒲生俊文氏閉會の辭を述べ、一同萬歳を齊唱して、時局下に於ける安全大會は大成功を收めて終了した。

演壇に立つはる蒲生常務理事

協調會ニュース

東京本部

役員會

三月十日午前十一時より本會々議室に於て開催。町田常務理事より昭和十三年度産業人災出捐算の說明と時局對策委員會の經過報告を爲したるに對し、二三の質疑應答ありて一同原案を可決し午後二時散會した。出席者左の如し。

德川會長、水野副會長、理事池田宏氏、河原田稼吉氏、吉田茂氏、谷口留五郎氏、田子一民氏、澁田敬一郎氏、松岡均平氏、鹽澤昌貞氏、常務理事町田辰次郎氏、長岡保太郎氏、蒲生俊文氏。

評議員會

本會第十九回評議員會は、三月二十八日正午より東京市一ツ橋學士會館に於て開催された。最初に德川會長の挨拶あり、續いて町田常務理事より本會昭和十三年度各會計豫算案外三件の議案の說明と時局對策委員會の經過について說明を爲したる後、一同原案を可決決定し、午餐を共にして午後二時散會した。尙當日出席された評議員は左の通りである。

德川會長、水野副會長、谷口留五郎氏、塚本清治氏、成田一郎氏、村瀨直養氏、關瀨八忠氏、稻垣勝太郎氏、戸田保忠氏、櫛原安太郎氏、赤木朝治氏、櫛原安太郎氏、井上孝哉氏、建部遯吾氏、澁澤總明氏、鹽澤幾之輔氏、鹽澤昌貞氏、町田常務理事、長岡常務理事、蒲生常務理事。

社會政策研究會

三月十七日、本會々議室に於て企業院川崎巳三郎氏より「歐洲大戰時に於ける独逸の勞働統制」に就て研究の發表があり、後質疑應答を重ねて頗る盛會裡に閉會した。出席者二十名。

工場事業主座談會

三月一日正午日比谷松本樓に東京府下工場事業主座談會を開催した。曰半會五十風健治氏、並木萬年筆製造組氏、杉田製線杉田工場主、町田工場主、清水井深町鑄藏氏、大塚製靴組島工場長等、厚生省勞働局より安積勞務課長、鈴木、池田事務官等、警視廳より上山工場課長、木會より蒲生常務理事、長谷谷參事が出席して工場の教育施設等の問題に付熟心な意見を交換し午後四時散會した。

勞務主任者座談會

三月二日正午日比谷松本樓に於て東京府下日立製作所、芝浦製作所、瓦斯電氣工業、藤倉化學工業、渠原紡織、東京瓦斯、名和製作所、中島飛行機各社の工場長又は勞務主任者の座談會を開催した。厚生省勞働局より安積勞務課長、鈴木、池田事務官等、警視廳谷參事が出席して工場の教育施設等の問題に付熟心な意見を交換し午後四時散會した。

工場事業主座談會

三月一日正午日比谷松本樓に東京府下工場事業主座談會を開催した。曰半會五十風健治氏、並木萬年筆製造組氏、杉田製線杉田工場主、町田工場主、清水井深町鑄藏氏、大塚製靴組島工場長等、厚生省勞働局より安積勞務課長、鈴木、池田事務官等、警視廳より上山工場課長、木會より蒲生常務理事、長谷谷參事が出席して工場の教育施設等の問題に付熟心な意見を交換し午後四時散會した。

工場結核豫防講演會

三月二十二日木會講堂に於て開催した。蒲生常務理事挨拶、警視廳工場課長上山壓氏開會の辭を述べ、東京市立結核豫防所長田澤鉦二氏より「工場の結核豫防に就て」なる題の下に講演があつた。出席者は東京市の工場主、勞務擔當者九〇〇名の多數であつた。

日本國民體育研究會

日本國民體育研究會では恒例に依り三月一日(火)、十一日(金)、廿二日(火)午後六時より二時間本會講堂に於て練習を行つた。出席者は、體操學校生徒、警視廳工場課員、工場體育指導者、工場從業員等約五十名で盛會であつた。

フキルム利用狀況

坑底の爆音　五卷　名古屋出張所
復活　五卷　同
改訂版復活　三卷　同
坑底の爆音　五卷　高知縣工業協會
十六ミリ打てよ魂　六卷　東京工場協會
打てよ魂　六卷　樟太大榮鑛業所
坑底の爆音　五卷　同
坑底の爆音　五卷　同
閻魔は怒る　一卷　同
模範鑛夫　四卷　同
安全十二題　一卷　同
電氣工業　藤倉化學工業、渠原紡織、東京瓦斯、名和製作所、中島飛行機各社の工場長又は勞務主任者の座談會を開催した。厚生省勞働局より安積勞務課長、鈴木、池田事務官等、警視廳谷參事が出席して工場の教育施設等の問題に付熟心な意見を交換し午後四時散會した。
先づ榮養　一卷　同
酸素呼吸器說明　一卷　同
鑛山に於ける急救法　一卷　同

トーキー出張映畫

坑底の爆音　五卷
日本體育會體操學校（東京）
三月二十三日
坑底の爆音　五卷
日本鑛業株式會社（東京）

圖書館

三月一日より三十一日に至る間の閲覽者總數は八七名、内本會職員四二名、官公吏五名、研究團體調査員三二名、教授學生六名、其他十二名である。開館日數二十六日間、閲覽冊數二二五冊、貸出冊數八一冊である。

大阪支所

社會立法協會大阪委員會

三月九日（水）午後五時四十分より大阪市北區朝日ビル五階集會室に於て開催した。中山太陽常主中山太一氏より開會の挨拶があつて後、榮濱口企畫院調査官より職時に於ける勞働力の變化、人的資源の重要性、勞力資源の調整方法、勞働爭議防止等につき話がなされるのではないかと思ふ。現に目標のはつきりした事業に於てば着々劃期的な發展を見てるるやうだ。從つて、需給數を具體的に決定することが必要であり、それは出來つゝある。

一、全軍動員の場合の所要追加勞働力を平時に於て如何に準備確保するか、又平時化した場合、その餘りを如何に圓滑に轉換せしめるかが問題の中心であるがそれを事業主に委せて可なりやそれを事業主に委せるべきである。

一、國家總動員の場合女子を仕事に就かせる必要があるがその場合女子の生活改善につき考へる必要がある。

一、職工養成に就ては今日の高等小學をもつと實業學校化する必要がある。從つて學制改革が必要である。

一、熟練工養成に就ては小工場の演ずる役割が極めて大であるからそれを充分可能ならしめる制度を設くべきである。

一、短期養成の職工はいろいろ缺陷があるから師後の教育に就て充分考慮する必要がある。

尙、倉橋氏より紹介所その他に就て出席諸氏の質疑に對し詳細に說明があり、桑原、久保氏等より熟練職工の現狀及養成の計畫等に就き說明せられた。（完）

（十一頁より）

ないと思ふが、此際將來の大目標に向つての勞働力需給調整の案を研究せられては如何。

一、將來の勞働力需給調整方法として職工の技術及精神教育を徹底的に行ひ、農村に於て も産業教育を充分行ふことが必要である。

一、勞務需給の問題は日滿支を一體として考へられなければならぬ。

一、農村の勞働力の不足は數の問題でなく質の問題であるから、これを技術的に出來るだけ圓滑に處理し、國民經濟の全般的變化に應じて行くやうにすることが大切である。

一、農村勞働力は從來の經營方式をそのまゝにする限り不足は不可避であるが、それを變革すると云ふ事が大きな人口問題の見地から考究さるべきである。等次いで倉橋氏より職業紹介所法について詳細なる說明があつて、種々質問討議を行つた。

續いて三十日の對策委員會に提出すべき第二專門委員會審議經過中間報告案の審議を行つて終了した。

第七回　三月三十一日木會にて開催。河原田稼吉氏（委員長）松岡均平氏、吉阪俊藏氏、暉峻義等氏、小林順一郎氏、桑原愚氏、久保滿雄氏、倉橋定氏、桑井銑二氏（代理）、山田勝男氏、中山常氏、松岡駒吉氏、西山仁三郎氏、森田良雄氏、伊藤保次郎氏、深川正夫氏、山田榮一氏、溝邊六郎氏、和田隆逕氏、野村卓三氏、清水蓉一氏、氏家貞一郎氏、町田辰次郎氏、長岡保太郎氏、蒲生俊文氏出席。河原田委員長より昨日委員會に於て本專門委員會作成の勞養關係調整案が若干の修正を經て、可決せられたことを報告され、長岡幹事より提出の勞働力需給調整問題審議項目案に就き審議を行つた。審議の大要は次の如くである。

一、熟練工養成に就ては徹底した精神的技術的教育が必要であること。紹介所は單に勞務の需給を調節するばかりでなく仕事場の改善等にまで乘出すことが必要であること。勞働手帳は、單に形式的なものでなく健康や能力等、一切の經歷を記載したものでなければならぬ。

一、項目に賃銀政策を入れる必要がある。勞働力爭奪防止の意味に於てもそれは必要である、又中小工場の賃銀を統一するために何等かの方法をとる必要があるのではないか。

一、勞働力需給を考へる場合にも亦、本委員會の決定した勞養關係の指導精神を充分生かす必要がある。それがためにはその方法に改革を加へると同時に實際生産力擴充の具體的な目標を與へれば、民間事業家は安心して やれるのではないかと思ふ。

一、熟練工養成に就ては現在彌縫的且不徹底であるから不充分な點がある。

一、職工養成に就ては今日の高等小學をもつと實業學校化する必要がある。從つて學制改革が必要である。

一、熟練工養成に就ては小工場の演ずる役割が極めて大であるからそれを充分可能ならしめる制度を設くべきである。

一、短期養成の職工はいろいろ缺陷があるから師後の教育に就て充分考慮する必要がある。

尙、倉橋氏より紹介所その他に就て出席諸氏の質疑に對し詳細に說明があり、桑原、久保氏等より熟練職工の現狀及養成の計畫等に就き說明せられた。（完）